

目次

口 絵

刊行のことば

市史発刊にあたって

凡 例

図表目次

題 字 福生市史編さん委員会 会長 野島 茂雄
見返し図

表 熊川村御料御私領入会見合絵図 享保一九年

裏 武州多摩郡福生村絵図 (石川彌八郎家蔵) 年未詳

(田村半十郎家蔵)

第一編 原始・古代

第一章 旧石器時代……………三

第一節 旧石器時代の概観……………三

ヒトと道具 岩宿の発見と日本の更新世人類 ウルム氷期の動植物相

考古学と年代……………七

相對年代と絶対年代

第二節 武蔵野の旧石器文化……………八

石器の種類と用途 石器文化の変遷 武蔵野台地の旧石器文化

第三節 福生市と周辺の旧石器文化	一四
------------------	----

槍先形尖頭器の採集 周辺の旧石器時代遺跡

第二章 縄文時代	一七
----------	----

第一節 縄文時代の概観	一七
-------------	----

土器と弓矢 日本人の祖先縄文人

第二節 縄文文化の変遷と福生の遺跡	二〇
-------------------	----

福生の遺跡

1 縄文草創期	二三
---------	----

最古の土器 多摩の草創期遺跡とサケ 槍から弓矢へ

2 縄文早期	二七
--------	----

撚糸文化の遺跡 不動尊遺跡の撚糸文化

3 縄文前期	三一
--------	----

縄文海進と集落発展 福生市13号遺跡 長沢遺跡の前期土器

4 縄文中期	三五
--------	----

華麗な勝坂式土器 多摩川流域の集落発展 市内最大の長沢遺跡

5 縄文後期	四一
--------	----

	不思議な衰退と呪術の発達	1号遺跡と6号遺跡	
6	縄文晩期		四
	縄文文化最後の華		
第三節	長沢遺跡に見る縄文人の社会と生活		四
1	長沢遺跡の位置と調査		四
	広大な遺跡	調査の経過	
2	住居と生活用具		五
	竪穴住居と家族	失われた財産目録	
		煮炊き用の深鉢形土器	
		さまざまな用途の石器類	
3	生業と交易		五
	長沢の四季と食料獲得	豊かな採集民の生活	
		運ばれる黒曜石や土器	
4	呪術の世界		六
	縄文人の人生儀礼	死と埋葬	
		長沢遺跡の土墳墓群	
5	長沢遺跡の変遷		七
	第Ⅰ期（黎明期）	第Ⅱ期（成立期）	
		第Ⅲ期（発展期）	
		第Ⅳ期（成熟期）	
		第Ⅴ期（衰退期）	
第三章	弥生時代		七
第一節	弥生時代の概観		七

稲作のはじまり 利器から祭器へ 弥生時代人 稲作の伝播と社会の発展 大規模な環濠集落
甕棺墓と方形周溝墓

第二節	福生市周辺の弥生文化	八四
-----	------------	----

多摩の弥生遺跡

第四章	古墳時代	八六
-----	------	----

第一節	古墳時代の概観	八八
-----	---------	----

巨大古墳の出現 古墳の発展と被葬者

第二節	大和政権と武蔵の古墳	九一
-----	------------	----

南武蔵の古墳 野毛の大塚古墳 北武蔵の古墳 武蔵国造の内紛と古墳分布

第三節	多摩川上・中流域の古墳	九六
-----	-------------	----

古墳群の分布

第四節	瀬戸岡古墳群と浄土古墳群	一〇三
-----	--------------	-----

多摩川中流域古墳の三類型 瀬戸岡古墳群の調査 浄土古墳群と古墳の終末

第五節	古墳時代の集落と生活	一〇八
-----	------------	-----

古墳時代の土器土師器の変遷 古墳時代後期の住居と集落 古墳時代人の生活

第五章	奈良・平安時代	二三
第一節	律令社会の成立と展開	二三
	聖徳太子の政治 大化の改新と律令制	
第二節	律令体制下の武蔵国	二五
	武蔵国と国府 多磨郡と有銘紡錘車 多磨郡の十郷と福生市周辺 戸籍と集落遺跡 農民の負担と木簡 兵役の義務と防人の悲劇 鴨の里はいずこ	
第三節	武蔵国分寺の建立と仏教文化	二五
	鎮護国家の仏教 武蔵国分寺の造営と漆紙文書 国分寺の規模と変遷 国分寺の伽藍 武蔵国分寺の瓦 瓦製造窯址とその分布	
第四節	律令社会の変容と武蔵国	二四
	荘園の拡大と武蔵国 蝦夷征討と東国の疲弊 武蔵国の勅旨牧	
第五節	遺跡に見る古代武蔵国	一七
1	住居と集落	一七
	多摩川流域の集落遺跡 竪穴住居と遺物	
2	生産と流通	二一
	農業生産と農具 窯業の発展	

3	仏教と火葬墓	一四五
---	--------	-----

火葬のはじまりと伝播 獣脚付骨壺の発見

第二編 中 世

第一章	鎌倉時代の福生市域とその周辺	一五
-----	----------------	----

第一節	多摩の東と西―中世福生の位置―	一五
-----	-----------------	----

古代から中世の多摩へ 中世福生の遺跡と遺物 多東と多西 地域をめぐる交流 中世多摩のなかの福生

第二節	多摩の武士団と鎌倉幕府の開設	一六
-----	----------------	----

武士団の形成 武蔵国の武士団 多摩郡の武士団 西党と平山氏 頼朝の鎌倉開幕

第三節	系図にみえる福生と鎌倉武士	一八
-----	---------------	----

「福生村」と平山季重 塚目家政と「武蔵国フツサ」 福生周辺の鎌倉武士

第四節	北条氏の武蔵経営と武蔵野開発	一九五
-----	----------------	-----

北条氏の武蔵経営 泰時の武蔵野開発と長者堀伝説

第二章	南北朝・室町時代の福生市域とその周辺	二〇一
-----	--------------------	-----

第一節 鎌倉幕府の滅亡から南北朝の内乱へ……………二〇二

幕府政治の変化 鎌倉幕府の滅亡と建武新政 南北朝の内乱と観応の擾乱 石浜の所在地をめぐって

第二節 鎌倉府の支配と多摩地域……………二二一

鎌倉府の成立 基氏の時代 府中在陣

第三節 東国の動乱と武州南一揆……………二二七

東国の動乱 一揆の成立 武州南一揆の動き 武州南一揆の人々 市域周辺の領主たち

第四節 武蔵守護代大石氏の盛衰……………二三三

大石氏の登場 鎌倉府下の大石氏 大石道守と石見守 大石憲重と大石憲儀 享徳の大乱のなかで 上杉氏の内部抗争 後北条氏との接触 大名領国下の大石氏

第三章 戦国時代の福生市域とその周辺……………二五八

第一節 後北条氏の武蔵侵攻と北条氏照の登場……………二六八

後北条氏の台頭 戦国時代の三田氏 後北条氏が多摩支配 後北条氏と多摩の領主たち 北条氏照の登場

第二節 北条氏照の活躍……………二七二

三田氏の滅亡と滝山領 後北条氏の下総方面侵攻と氏照 越相同盟の締結と氏照の役割 北条家

奉行人としての活躍

第三節 北条氏照と福生の人々……………二七九

氏照の制札をめぐる…………… 発見された氏照文書の写し…………… 氏照文書にみえる「福生」…………… 戦国を生きぬく福生の人々……………

第四節 北条氏照の滝山・八王子領支配……………二八三

氏照の領域支配の進展…………… 氏照発給文書の概要…………… 氏照の家臣団編成…………… 氏照と農村・農民…………… 氏照と職人たち…………… 後北条領国と氏照の領域……………

第五節 小田原合戦・八王子城の落城と福生周辺……………三〇〇

関東の情勢…………… 八王子城の築城…………… 秀吉の惣無事令と後北条氏…………… 小田原合戦と八王子城の攻防…………… 八王子城落城と大悲願寺過去帳…………… 中世福生・多摩の終焉……………

第四章 中世の寺社と人々の信仰……………三〇三

第一節 中世の寺院と神社……………三〇三

中世福生地域の宗教状況…………… 臨濟宗各派の展開と多摩地域…………… 心源希徹の活動と清岩院の開創…………… 長徳寺と福生院の開創…………… 熊川神社の開創……………

第二節 板碑にみる人々の信仰……………三〇九

板碑とは——中世のかおり…………… 板碑の名称とその特色…………… 武蔵型板碑…………… 福生の板碑調査…………… 福生の板碑……………

分布と造立年代 板碑への祈りと建てた人々

第三編 近 世

第一章 幕藩体制の成立と関東……………三五

第一節 徳川氏の入部と近世村落の成立……………三五

「惣無事令」と後北条氏の滅亡 徳川氏の関東入国と知行割 福生村の支配変遷 熊川村の支配
変遷 福生と都筑郡 福生市周辺の近世初期検地 福生市域の検地 検地と村の成立 開村
伝承と旧家百姓 熊川神社棟札にみる前期の農民 延宝四年の熊川村長塩氏領 元禄一四年の熊
川村

第二節 幕府領支配と年貢の変遷……………三七

年貢 年貢割付状 検見取法 年貢皆済目録 「永」納 定免制の開始 破免検見 享
保期の年貢皆済 年貢割付高の変遷 福生村のその他の年貢 熊川村の河原新田と反高場 旗
本田沢氏領の年貢 旗本長塩氏領の年貢 六公四民と五公五民……………四八

第三節 旗本田沢氏と知行所支配……………四八

田沢氏の系譜 大番の家筋 大番とお茶壺付 知行所支配 田沢氏の年間収入 田沢氏の家
政状況 文政四年貸付金一件 その他の御用金・先納金……………四一

第四節 旗本長塩氏と知行所支配……………四一

第二章 近世村落の展開……………四五一

第一節 村切と越石地……………四五一

越石とは 文化二年越石出入一件 川崎村の返答書 村絵図にみる越石地 村切と越石地
越石出入一件解決

第二節 小字・小名……………四五六

大字福生 福生村の小名 大字熊川 熊川村の小名 福生の道と坂と橋 「検地帳」にみえ
る小地名

第三節 河原新田の開発と村境……………四六七

江戸中期の河原新田 明和九年の下河原往還出入 嫌われる河原開発 下河原水田と名主勘次郎
下河原開発と下草花村 熊川村・下草花村河原地境争い

第三章 戸籍・人口の変遷と村財政……………五二三

第一節 宗門人別帳からみた村……………五二三

宗門人別帳について 市域の宗門人別帳 戸数と人口の動向 奉公人と馬 死亡と相続 結
婚をめぐって 家族の構成と時代の流れ

第二節 村方の諸経費と村民の生活 五三

1 熊川村幕府領分の村入用帳と村入用取調帳 五三

2 熊川村幕府領分における恒常的な村方経費とその変遷 五八

3 熊川村の「三分入用」 五四

4 玉川上水関係入用 六一

御上水芝野銭の上納 玉川上水御用廻状と人馬の継立 羽村堰定式御普請人足役 上水縁草の刈

取りと底浚い 橋の掛替と修復 羽村堰修復の請負工事

5 尾州鷹場関係入用 五七

6 上鮎関係入用と寄場組合村入用 五五

7 自普請費用の捻出 五八

宿橋等の維持と村民の寄付 牛浜橋・宝蔵院橋と村々の勸化 大山参詣衆の助力による日光橋

手当金利息による新堀橋

8 祭り入用 五八

第四章 多摩川の漁業と御用鮎 五七

第一節 多摩川の漁業 五七

1 商品生産としての鮎漁 五七

	商品生産としての鮎漁	漁業生産量
2	近世初頭之多摩川の漁業	五二
	御菜鮎上納 運上 御川狩御成鵜匠御用	
3	漁場の占有利用関係	五四
	山野海川入会 享保七年の漁場争論 運上と漁場利用の関係	
4	漁業資源の枯渇と漁業規制	五九
	新しい漁業秩序	
5	漁師仲間と水神信仰	六三
	漁師株による生活保障 漁師仲間の連帯と維持	
6	近世之多摩川の漁法	六五
	漁法の分類 網漁 釣漁 築漁 鵜飼漁 その他の漁法	
7	近世之多摩川の漁業の特質	六二
第二節 御菜鮎上納御用と御川狩御成鵜匠御用		
1	御菜鮎上納御用	六三
	御菜鮎上納御用の起源 享保七年の御用役赦免 延享元年の御用役復活 鮎唄と上納方法 御用役と漁場利用の関係 組合化と漁師仲間 尾州藩への鮎上納 御用鮎の終焉	
2	御川狩御成鵜匠御用役	六七

第五章 玉川上水の開削と新堀工事……………六三四

多摩川の鵜飼 伊奈村と代継村の漁場紛争 宝暦の伊奈村と高尾村等の漁場紛争 留原村と伊奈村等との漁場紛争

第一節 上水開削と水喰土……………六四四

公儀日記と上水記 三田村鳶魚と水喰土 二つの水喰土説 長者堀とは 長者堀の水源 角田説について 古上水堀（水喰土）の位置 昭和の水喰土騒ぎ

第二節 新堀工事……………六五三

福生地先における新堀工事 工事計画と予算 請負制と工期 新堀と移転農民 工事の遺したもの

第六章 諸産業の発展と村方の変質……………六六七

第一節 酒造業の展開……………六六七

福生は東京の銘醸地 酒造業の歴史 元禄寛政の酒造史 田村酒造の創業 干の店内 田村本店の経営 小川村森田酒造と石川酒造 明治維新と酒造政策 醸造税則 酒類税則 酒税の間接税化 酒造税則 明治前期石川酒造の経営内容 熊川蔵建設の理由 明治後期の石川酒造 干店内の解散と酒造政策

第二節 福生の諸産業と農間渡世……………七二一

農間渡世の展開と市 御用庭 質屋渡世

第三節 織物業地域の確立と展開……………七三

1 織物生産と在方市場……………七三

村の生業 織物 市場 縞買い

2 養蚕と機織り……………七五

養蚕業 生糸と綿糸 機織り

3 織物業地域の展開……………七七

農間渡世 織物業地域 開国とその後展開

第四節 村方の変質と幕府の対応……………七三

村落の変貌と民衆運動 天明四年の打ちこわし 天明八年熊川村の村方出入り 幕府の農村政策

村議定と村の対応 改革組合村の設定 改革議定 教諭と若者仲間の取締り 拝島村組合

天保飢饉 江川太郎左衛門の旧弊改革

第七章 寺社と農民……………七六

第一節 農民の生活と寺社……………七六

江戸幕府の寺社統制と市域寺社 旗本の寺社復興と近世寺院 寺院と人別改め 身分保証と寺院
寺院と金融機能 葬祭と檀家 その他の役割 寺院住職と檀家 僧侶の履歴 寺院の行事と

勸化活動 寺院の諸出入 寺院の不覚 寺院と神社・小祠

第二節 修験と村を訪れる宗教者……………七九三

半沢覚田坊と真福寺 覚田坊の霞支配と出入 高野山慈眼院と半沢覚田坊 慈眼院の檀那廻りと

多摩郡 近郷からの来訪者

第八章 農耕生活と文化……………八二四

第一節 農耕生活と年中行事……………八四四

1 名主日記と村の生活……………八五四

2 熊川村の一年……………八五五

大正月の行事 小正月の行事 恵比須講 正月の日待 節分 出代わり コト八日 稲

荷講 上巳の節句 春の彼岸 煤払い 水神祭り 氷祭り 端午の節句 田植祝い

天王祭り 夏あがり 七夕 盆の行事 中元祝儀 宿下がり 月見 風祭 秋の彼岸

重陽の節句 秋の日待 恵比須講 麦まき祝 一二月一日の行事 コト八日 正月の準備

3 信仰に関係する行事……………八七三

榛名講 三峰講 御嶽講 戸隠講 大山講 富士講 伊勢講 甲子待 巳待 庚申

待 念仏講

4 その他の行事……………八八〇

寄講・会日 雨ごい・天気祭り

5	村の暮らしと年中行事	八三
第二節	庭場と組の構造と機能	八四
	村の中の集団	
	庭場とは	
	民俗としての庭場	
	熊川村の庭場	
	福生村の庭場	
	庭場の機能	
	庭場の人々	
	百姓名のついた村組と庭場	
第三節	農民文芸の興隆	八五
1	化政・天保期の俳諧	八五
	宝暦・天明期の俳諧	
	村の俳人玉石館梅里	
	俳諧交流の広がり	
	俳諧交流の背景	
2	幕末・明治期の俳諧	八七
(1)	福泉舎友甫の活躍	八七
	田村家と幽夢	
	田村家と友甫	
	俳人として成長する友甫	
	宗匠友甫	
(2)	福生村出身の俳人・松原庵友昇	八九
	開港場横浜で活躍する商人	
	横浜の俳人・嘯月庵友昇	
	松原庵友昇と多摩	
3	俳諧交流の広がりとその背景	九〇
	白雄の系流	
	俳諧の背景	
第九章	幕藩体制の終焉と村落	九二
第一節	開港と農民負担の増大	九三

開港と幕末の政局 兵賦令の布達 幕長戦争での献納金 助郷の負担

第二節 福生市における千人同心……………九二四

1 福生の千人同心……………九二四

由来 横田家 清水家（粟沢） 乙津家

2 將軍上洛と横田穂之助の随伴記……………九三〇

將軍上洛 出動命令 將軍御入来 入洛

第三節 武州世直し騒動……………九四三

1 江川農兵と拝島宿組合……………九四三

2 武州世直し騒動……………九五七

3 八王子陣屋設置反対運動……………九六二

第四編 民俗

第一章 日々の暮らし……………九七一

第一節 畑作と暮らし……………九七一

1 大麦・小麦……………九七一

種まき かい作 収穫

2	陸稻	九七五
	種まき	
	収穫	
3	養蚕	九七六
	準備	
	飼育	
	上簇	
第二節 暮らしと衣服		
1	きものと女のくらし	九八一
	衣料と機織り	
	お針	
	洗濯	
	きものの繰りまわし	
	整理と保管	
2	働く人のきもの	九八五
3	成長ときもの	九八七
4	日常着とハレ着	九八九
5	ハレの日の服装	九九〇
	ご祝儀(婚礼)	
	葬儀	
6	寝具	九九一
7	髪型と化粧	九九二
第三節 食生活		
1	ふだんの食事	九九三
	主食	
	副食	
	間食	
	一日の食事	

4	立春をすぎて	1014
5	盆の行事	1015
6	夏祭り	1016
第二節 秋から冬へ		
1	秋は来ぬ	1017
2	稔りの秋	1018
3	冬も近づく	1019
第三節 暮らしと年中行事（その変容と消滅）		
1	消滅とその原因（I家の場合）	1020
2	戦後家庭の年中行事（Y家の場合）	1021
消滅と変容		
第三章 人々のつきあい		
第一節 人々のつきあいとくらし		
1	ムラのつきあい	1022
2	ニワバのつきあい	1023
3	親族・同族のつきあい	1024

4	その他のつきあい	104八
第二節 人生とつきあい		
1	産育とつきあい	104九
	妊娠から出産まで	
	誕生と祝い	
	成長と祝い	
	育児の俗信	
2	結婚とつきあい	104二
	相手えらび	
	嫁もらい	
	ご祝儀	
	里がえり	
	その他	
3	葬式とつきあい	104三
	死から通夜	
	葬式	
	忌明けと年忌	
	その他	
第四章 人々の信仰		
	第一節 屋敷神	104八
	第二節 講の集まり	104九
第五章 祭りと芸能		
	第一節 春秋の祭り	104二
1	福生神明社の例祭と薬師様の祭り	104二
2	熊川神社と福生不動尊の例祭その他	104三

第二節 夏祭り	109
1 江戸時代の天王祭り	109
2 福生村の八雲神社の創建と天王祭り	109
第三節 戦後の夏祭りの移り変わり	109
第四節 福生の民俗芸能	109
1 天王囃子	109
2 重松流祭り囃子	109
関係者名簿	109